

2016年12月26日
ボストン コンサルティング グループ
株式会社リクルートホールディングス

**ボストン コンサルティング グループとリクルートワークス研究所が
「求職トレンド調査 2016」を発表
世界13カ国(G7、BRICS、オーストラリア)で2015年に就職・転職した人の求職行動を解明
-海外での就職・転職に関心を持つ日本の求職者は約30%-**

ボストン コンサルティング グループ(東京オフィス：東京都千代田区、日本代表：杉田浩章)と、株式会社リクルートホールディングス(本社：東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO：峰岸真澄)内の人と組織に関する研究機関であるリクルートワークス研究所は、共同で「求職トレンド調査 2016」を実施しました。これは、2015年に就職・転職した、13カ国・約13,000人の求職行動を、国際比較可能な形で明らかにしたものです。なお、「求職トレンド調査」の実施は昨年につき今年が2回目です。

調査結果をまとめたレポートは、次のURLよりダウンロードいただけます。

http://www.works-i.com/pdf/161226_jst2016.pdf

<ポイント>※明記のないものについては、13カ国平均について説明しています。

2015年に求職活動を行い就職・転職した13カ国・約13,000人を対象にした本調査では、次の結果が得られた。

1. 国境を越えた就職・転職

- 海外での就職・転職に関心を持つ人(今回の就職・転職に伴い、実際に海外に移住した人を含む)は64%。
→ 英語を母国語とする国の人、若い年代の人が、関心が高い傾向にある。
- 回答者全体のうち、今回の就職・転職に伴い、実際に海外に移住した人は7%。
→ 移住の理由として、本人の都合よりも、子育て支援・教育・医療制度など、家族にとってプラスになる点を挙げた人が多い。

2. フリーランス

- フリーランスという働き方に関心を持つ人(フリーランスの仕事を始めた人を含む)は76%。
- 回答者全体のうち、今回の就職・転職で、実際にフリーランスの仕事を始めた人は23%。うち、68%の人は、自分のメインの職業は、会社員・派遣社員・契約社員の仕事だと答えた。
→ フリーランスで働く人の多くは、フリーランスの仕事を兼業とする給与所得者。

3. 入職経路

- 利用したすべての求職手段のうち、現職を得る上で最も有効/重要だった手段(入職経路)は、インターネット求人サイト(36%)とSNS(8%)を含むオンラインメディア44%、次いでリファーマル(職場の同僚や家族、知人からの紹介)16%。

[参考]日本の特徴

- 海外での就職・転職に関心を持つ人(今回の就職・転職に伴い、実際に海外に移住した人3%を含む)は約30%と、13カ国平均の64%を大きく下回る。
- 今回の就職・転職でフリーランスの仕事を始めた人は17%。うち、フリーランスの仕事をメインの職業とする人、自営業との兼業でフリーランスの仕事をやる人が、合計43%と他の国より高い。
- 利用したすべての求職手段のうち、現職を得る上で最も有効/重要だった手段(入職経路)は、インターネット求人サイト26%、次いでリファーマル19%、公的機関(ハローワーク等)18%。公的機関の利用割合は13カ国中最も高い。

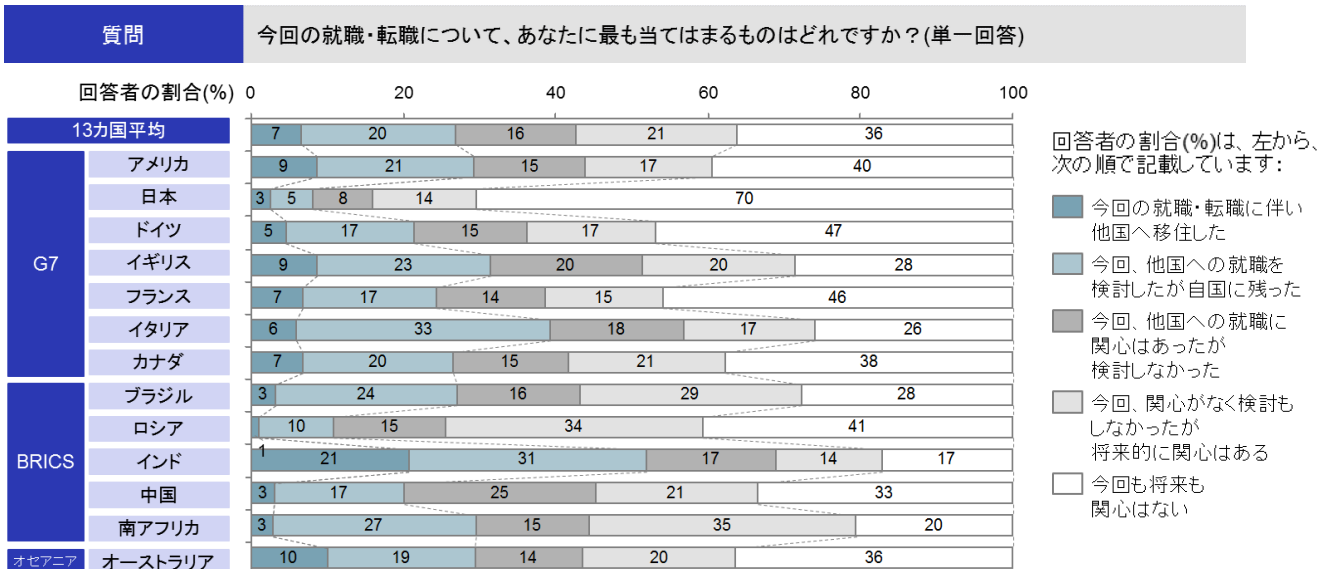
<調査概要>

- 目的：
 - 世界各国の求職者行動の実態を把握し、国際比較可能な形で明らかにすること
- 対象国(アルファベット順)：
 - オーストラリア、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、日本、イタリア、ロシア、南アフリカ、イギリス、アメリカ、インド、中国
- 対象者：
 - ✓ 上記対象国で、2015年1～12月に求職活動を行い就職・転職した人(15歳以上)
 - ✓ 被雇用者(会社員、アルバイト・パート、公務員)、非被雇用者(自営業者・フリーランス)
 - ※主夫・主婦・学生・退職者・失業者を除く
 - ※今回より新たに、非被雇用者(自営業者・フリーランス)を加えた
 - ✓ 学歴、男女比率によるウェイトバック集計を行った
- 入職経路に関する選択肢：今回より新たに、「SNS」を追加
- 調査項目：
 - 海外就職・転職への意向/関心度、海外就職・転職をした/検討した/興味があった理由、フリーランスという働き方への意向/関心度、今回の就職・転職で“フリーランスになった”回答者の現在のメインの職業、入職経路(最も有効な求職手段)等
- 手法：インターネットによるアンケート調査
- 期間：2016年6～8月
- 有効回答数：
 - 13,059人
 - (内訳 オーストラリア、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、日本、イタリア、ロシア、南アフリカ、イギリス、アメリカ：約830人/国、インド：約1,400人、中国：約2,500人)

<調査結果の詳細>

1. 国境を越えた就職・転職

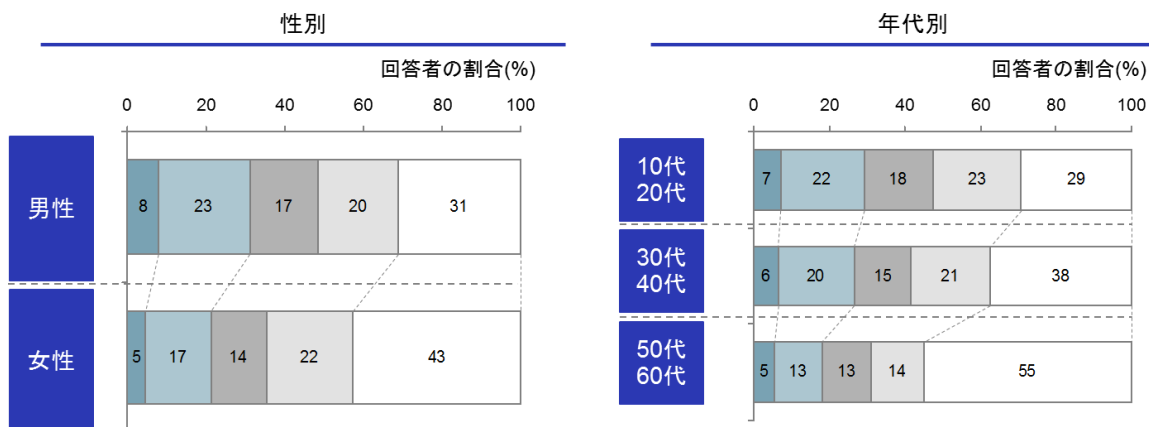
● 海外就職・転職への意向/関心度(国別)



注：有効数字1桁以外小数点以下四捨五入。回答者全員における割合。端数誤差により合計が100%にならないことがある。n=13,059
出所：求職トレンド調査2016

● 海外就職・転職への意向/関心度(性別、年代別)

質問 今回の就職・転職について、あなたに最も当てはまるものはどれですか？(単一回答)



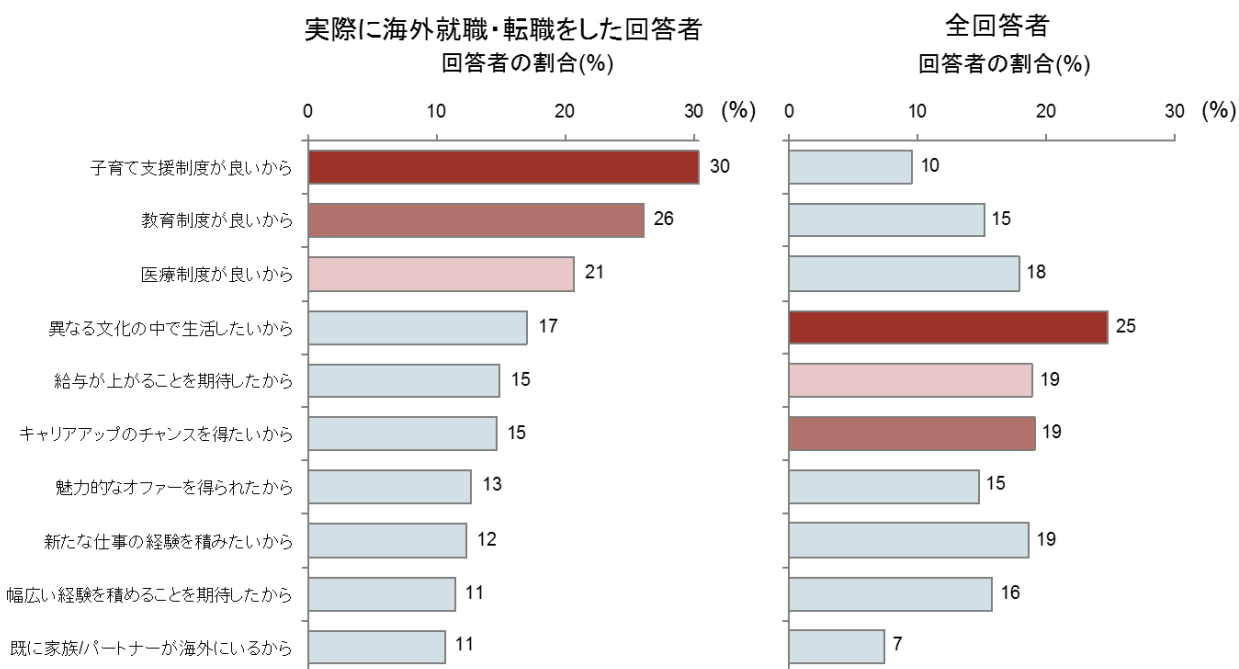
注: 有効数字1桁以外小数点以下四捨五入。回答者全員における割合。端数誤差により合計が100%にならないことがある。n=13,059
出所: 求職トレンド調査2016

回答者の割合(%)は、左から、次の順で記載しています:

- 今回の就職・転職に伴い他国へ移住した
- 今回、他国への就職を検討したが自国に残った
- 今回、他国への就職に関心はあったが検討しなかった
- 今回、関心がなく検討もしなかったが将来的に関心はある
- 今回も将来も関心はない

● 海外就職・転職をした/検討した/興味があった理由 移住の有無別比較

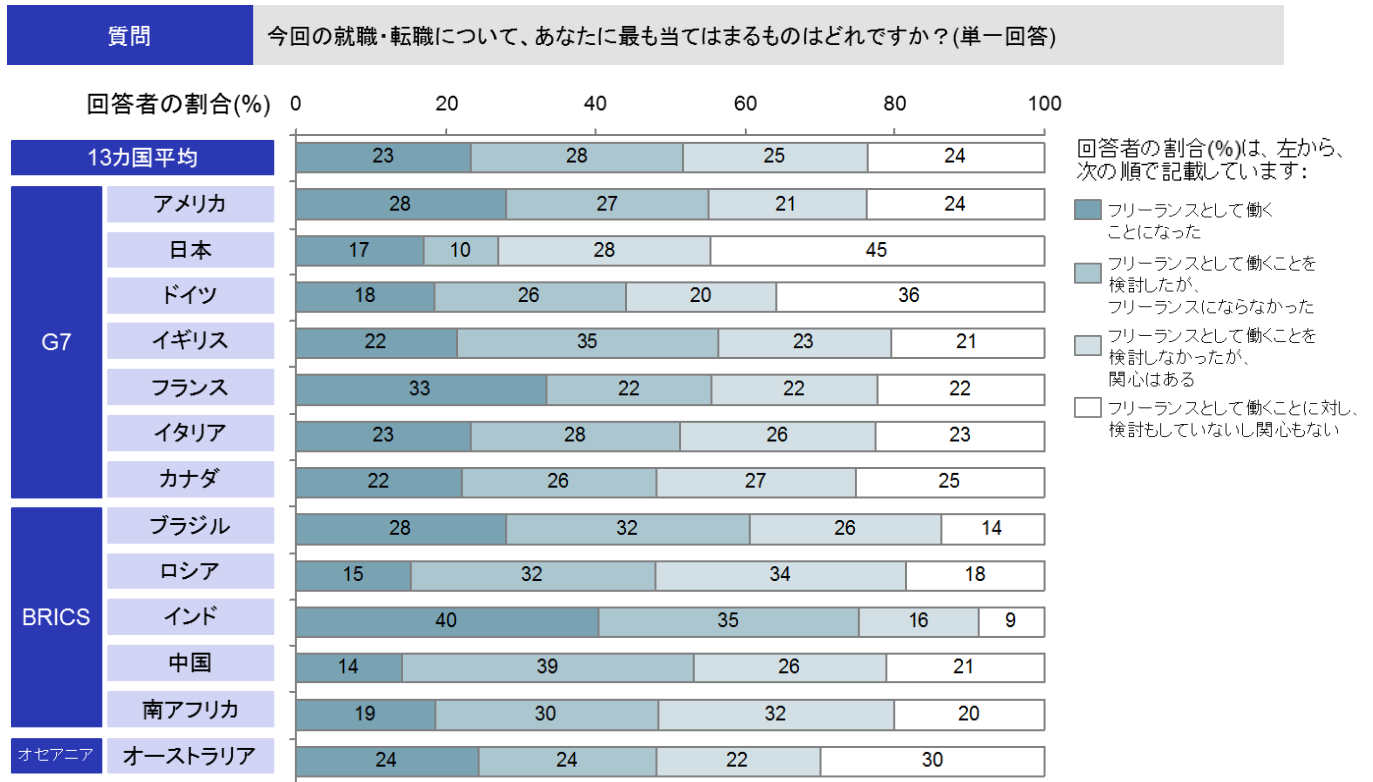
質問 海外で働くことに関心を持った理由は何ですか？(複数回答)



注: "今回も将来も関心はない"と答えた人は「全回答者」から除いている。全選択肢のうち、回答数の多かった上位10個のみ表示
出所: 求職トレンド調査2016

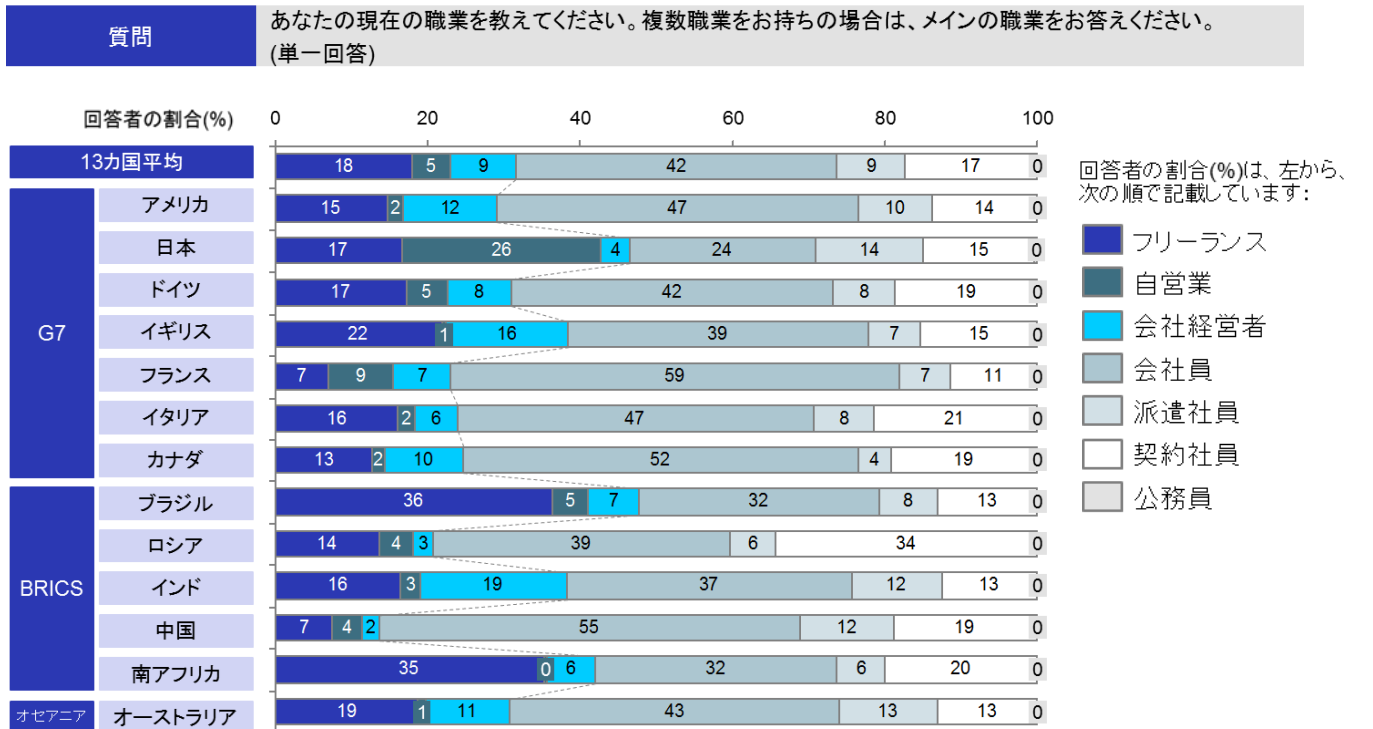
2. フリーランス

● フリーランスという働き方への意向/関心度(国別)



注: 有効数字1桁以外小数点以下四捨五入。回答者全員における割合。端数誤差により合計が100%にならないことがある。n=13,059
出所: 求職トレンド調査2016

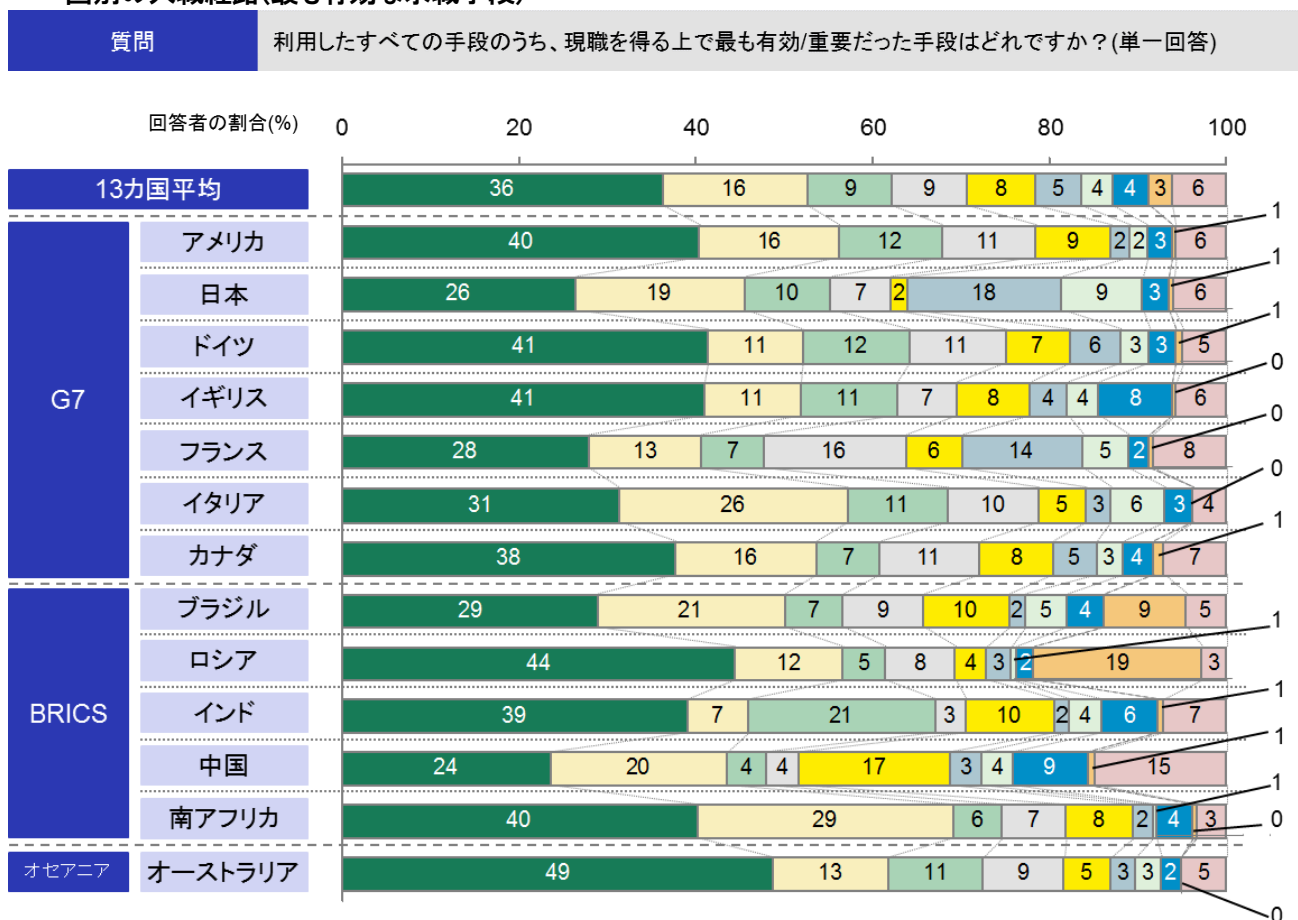
● 今回の就職・転職で“フリーランスになった”回答者の現在のメインの職業



注: 有効数字1桁以外小数点以下四捨五入。回答者全員における割合。端数誤差により合計が100%にならないことがある。n=3,011
出所: 求職トレンド調査2016

3. 入職経路

● 国別の入職経路(最も有効な求職手段)



注: 有効数字1桁以外小数点以下四捨五入。回答者全員における割合。端数誤差により合計が100%にならないことがある。n=13,059
出所: 求職トレンド調査2016

回答者の割合(%)は、左から、次の順で記載しています:

- インターネット求人サイト
- リファerral
(職場の同僚や家族、知人からの紹介)
- 新聞・雑誌等の紙媒体の求人広告
- 会社へのからの直接問い合わせ
- SNS
- 公的機関
- 人材派遣会社
- 人材紹介会社
- OB・OGの紹介
- その他

【お問い合わせ先】

<https://www.recruit.jp/support/form/>

以上